

29年度 実習生の視点から支援の見直しを考えるアンケート(集計)

保育実習生 20名 介護等体験 3名(a~c)

各項目、抜粋して掲載しています。

職員の対応等で気になる事については、職員から改めて支援の意図や質問に対する回答について丁寧に説明をしています。

1 利用者(児)が生活に不満を感じていたり、支援に対して納得をしていないと思ったことはありましたか？

- 利用者が職員に関わりを求めてアクションを起こすことが多くありますが、それがあまり良くない行為だと、職員が注意してどこかに行ってしまうことがあり、その後の利用者は浮かない表情をしていることがあった。
- 子どもたちの会話の中から、子どもによって職員の好き嫌いがあることに気が付いた。
- 外で遊びたいと思っている

2 職員の態度や支援方法で、気になることやよかった点はありましたか？

【気になった点】

- 利用者が職員に対してお願い(折り紙をとってくださいなど)を伝えても職員が忙しくすぐに対応できていないことがあった。
- もう少し笑顔を増やして欲しい、注意のほうが多い
- 介助(洗顔)が少し雑に感じた
- 自傷行為をする利用者への対応で、声をかけても続ける場合、どのように接するのか？
- 無反応、他害に対しての声かけ⇒他害をためなかったときの対応をよく見れていなかったため「やめてください」と言った後の対応等
- 児童に対して児童が話しかけたりなどしたときに、少し冷たい対応だなと感じました。

【よかった・参考になった点】

- 各利用者に応じた視覚支援が行われていた。
- 子どもの気持ちを受容しながらも良いことや悪いことを伝えていた。
- 言葉だけでなく表情や動作など非言語的なコミュニケーションも大切にしていた。
- 子どもたちに関わる際には常に笑顔で接していた。
- 「ありがとう」などプラスの言葉がけを行っており子どもたちの行動の良い面に着目していた。
- 子どもたち、職員の仲が良く、信頼関係を築いている。
- 不穏になった利用者の気分を和ませるために歌を歌ったり手遊びをしたところ。
- 質問した時、とても丁寧に教えていただいた。
- 職員同士で助け合っていた。
- 利用者とは1対1で対話することがある点
- 引継ぎの時に利用者がこういうこと事が出来るようになった。〇〇をしてくれました。など利用者のよい所を発表して、他の職員の方々とうれしい情報を共有することは、いいなと感じました。

- 「ありがとうございます」「お疲れ様でした」など感謝の気持ちを忘れずに伝えていき、実習中はすごく気持ちがよく実習できました。
- 利用者のことを考えての無反応は参考になりました
- マカトン法も実際に見ることができたのでよかったです
- 関わりを持つ（どんな時でも利用者の希望を叶える）だけでなく距離を置くということも大切な支援の一つだと学んだ

3 あなたがみたけ学園・みたけの園で生活するとしたら、改善して欲しいところはありますか？

【ハード面(住環境)】

- 利用者の中には廊下を走ったり転んだりする方もいるため柵や扉の角にクッションをつけるなど安全対策があれば怪我のリスクが減ると思う
- お風呂場の空調整備
- 一人一人の部屋が増えるとよいと思った
- トイレの臭いが気になった
- 安全に利用できる園庭が欲しい
- 破損のあるおもちゃをすぐに回収して欲しいです
- 高学年の利用者がいても困らない運動スペース（室内）が欲しい
- 取り合いにならないくらい本があると利用者の心の余裕が生まれるのかと思いました

【ソフト面(支援内容)】

- 自分の居室を掃除する時は毎回許可を取って欲しい
- 自分の居室に入ったり洗濯物の仕分けなどは同性の職員にして欲しい
- もっと職員の方とコミュニケーションをとりたい
- 余暇活動の際にみんなで何か楽しむことができる活動を実施したい
- 壁面装飾を増やせばさらに寮棟内の雰囲気はよくなると思った
- 外で遊ぶ機会を増やして欲しい
- 同年代の子どもと同じ経験を

